

平成26年度学校教育自己診断結果分析

平成25年度の学校教育自己診断では、アンケート項目数は生徒向け24項目、保護者向け18項目であったが、26年度は設問を精査し生徒向け14項目、保護者向け11項目とした。また、昨年度の質問項目において生徒の約20%～50%が「どちらともいえない」と回答したため、26年度は「どちらともいえない」の**選択肢**を削除した。また、保護者向けアンケートについても「どちらともいえない」を削除した。

(1) 学校生活全般について

「学校に行くのが楽しい」と回答した生徒は65.1%(昨年度は49.0%)、「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」と回答した保護者は69.0%(昨年度69.4%)。学校生活に対し進路など目的意識を持ち登校しているかを確認するために、来年度は「楽しい」を「充実している」に変更する。

「成城高校に入学して良かった」と回答した生徒は57.7%(昨年度なし)、「成城高校に入学させて良かったと思う」と回答した保護者は83.9%(昨年度88.9%)。学習指導、進路指導、クラブ活動の充実など生徒が一層有意義な学校生活を送ることができるよう校内での検討を進める。

(2) 教職員の保護者対応

「学校は保護者の相談に応じてくれている」と回答した保護者は66.7%(昨年度なし)。保護者との連絡を密にし、さらなる連携を図れる体制を促進する。

(3) 学習指導

「授業に集中している」61.9%(昨年度なし)、「授業はわかりやすい」51.8%(昨年度、類似項目で「授業はわかりやすく楽しい」では27.5%)と、生徒の回答では確実に学習に対する意欲の向上がみられた。保護者回答では、「子どもさんは授業が楽しいと言っている」42.5%(昨年度なし)、「子どもさんは授業がわかりやすいと言っている」36.2%であった(昨年度は46.3%)。授業改善がいまだ大きな課題であり、校内研修の機会を増やすなど授業力向上に向けた取り組みを強化する。

(4) 進路指導

「自分の将来について考える機会がある」との設問に、73.2%(25年度52.0%)の生徒が肯定的に回答しておりと答えており、キャリア形成に一定の成果は出ている。また、進路指導には保護者も73%(昨年度58.3%)が「適切な指導を行っている」と答えており、さらなる向上をめざし現在進めている進路指導体制の充実を急ぐ。

(5) 生徒指導等

「社会のルールについて学ぶ機会がある」と回答した生徒は、69.1%（昨年度49.2%）であり学校での基本的な社会ルールを守る指導が生徒にも浸透していることがうかがえる。「学校生活についての先生の指導は納得できる」と回答した生徒は、38.9%（昨年度28.5%）と生徒指導について、本校の指導方針に賛同している生徒が増えてきていることが読み取ることができ、今後も生徒への指導の徹底を行うとともに、指導の意義も伝える機会を増やすことで対応していきたい。

学校の「安心して高校生活が送れる学校づくり」の方針に共感できますかという設問に対して、保護者より73.6%（昨年度70.4%）の肯定的意見をいただいた。確実に本校の取り組みは成果をあげている。今後、生徒指導ルールに緩急をつけるが、基本方針は変更しない。

(6) 友人関係

「学校に心を開いて話せる友達がいる」と回答した生徒は79.3%（昨年度62.2%）で、さらに多くの生徒が友人関係を作ることができるよう、ピア・サポート体制を強化する。

(7) 情報発信

「学校から教育活動の内容について十分に情報発信されている」と回答している保護者は63.2%（昨年度58.3%）で向上しているが、ホームページ、学校新聞「成城」、学級通信等の充実を進めることで情報発信に努める。

※しかし、平成25年度学校教育自己診断の結果について、生徒向けは「どちらともいえない」を分母から除き算出し公表していた。

同様に保護者向けは「わからない」を分母から除き算出し公表していた。

平成26年度との比較では、一層正確にするため平成25年度の「どちらともいえない」、「わからない」を分母に入れ算出した数値に変更した。